多波礼具左

上

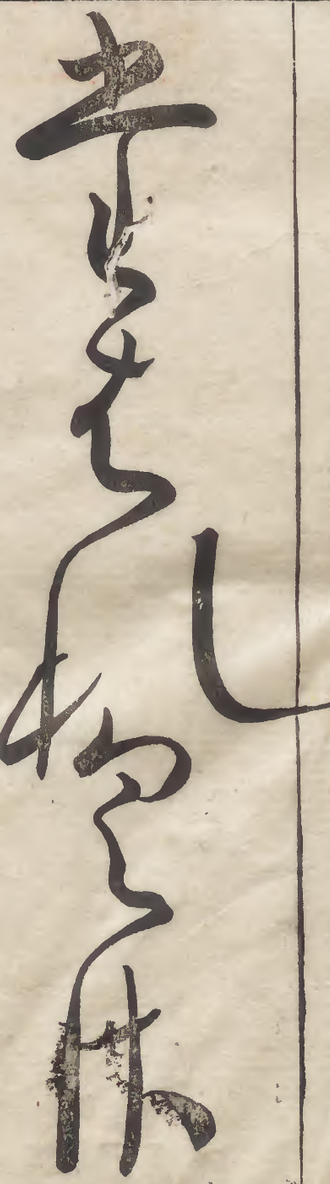
249
内閣文庫
和書
類
八九九一〇
號
三冊
二函一七架
(一ホ)

内閣文庫
番號 和 18996
冊數 3 (1)
函號 211 249

211-249

国立公文書館
National Archives of Japan

雨芳洲先生著



此書八教てを尋むつ〻ば益あるこゝろを考ふ其意達して言ひうに至りて味ひあるたもれくるこゝろを先生話通なるべし

大阪興文堂七林謹梓

日本政府図書

芳洲先生なるこゝろを佐上

なるこゝろをもかゝることゝ人はこゝろゆといふ我たゝ

ようこゝろをしなるこゝろ事ども我そぐろこゝろ

つゞけて学のそこゝろといふぐやをおそろしこゝろれどわがみち後

なるこゝろ人のかこゝろのそこゝろへこゝもおそくこゝうとたくこゝよや訓

こゝもおしんのこゝ佐こゝなる

こゝろこゝ記録のふこゝ我こゝたちこゝなこゝ人のいこゝ事はいかり

の学こゝもおこゝなこゝれやこゝくこゝちこゝある人乃いこゝこゝ学はあ

ふこゝものこゝなこゝちこゝある人のこゝ学はこゝちこゝある人こゝろ

こゝ事あこゝこゝ佐いへこゝちこゝある人いこゝの学こゝもこゝれこゝれ

浅草文庫

むかしちからある人の子孫おこなうべきなれども欲く
ぶきのけなるぶしきなわ
虞翻がいきめ城をちひさく稅布をゆせしより羌人謀
叛せるを漢史よみて城よりみて感じて此書をたく
まうそをゆたぶきをとて寒城初くのそ矢
とをちかわ
世れぐ〳〵ハいつくても男女のこちさぶしかるぶるおこ
まう人〳〵れいつくなれども学ぶる人をそれ
詩始関雎易基乾坤まことにまる真知之為貴也
此国れ俗名りてちかく文どで学ばれつくきくまして

人の心を感ぜしむる事ゆまことにまれ物のいつるや及ぶべ
きけまでまるもれるのハ心とおつる人なるにハまへせん
事いつく物ゆ多くしゆ中よかれるもあるを
おもひるハ人の心をそなへれしなるぶし世のこちれ
おもろかまるわかふ文もいぐき文かふ文をもてそれせ
れより世の道ゆやしにおもろくまなんとうれ〳〵学べ
ばる雑学のえちより役あえぶ天下まぐしぼ八年統
いつくしまるまるあう幕の法府なるよやたなる七葉八葉
どをそこをそれの道いなと否いつくる世ぐうもきらび世
乃中めでこ〳〵ん中先〳〵ぞ世あるぐ〳〵おぼゆ

三之狩の御事ハ天地開しはじめより御事にしてこれのみ
ならをつくし給ふ所の法の記録ともえいそしまつ
なれどうたてこそあさましうにきけしといつるほうハあるまじ
ほうのこゝろハあるべきまゝ書つゝ考ふるなさけなうも
なれど国の道も照穆ようおこなはるゝこゝろ
やうゝおろそかなるいとまかしこきあまつひつぎ隠岐
乃国よりあとびかへりていてハ冠裳さうゝしくおさまりの国
きうかれもせられてかゝもやうなき事なく我国の
ゝなれるゝまれど天のめぐみにえもれず雲霧のあ
とにてゝはれもにこりの御きゝゝゝゝゝ

まゝよう今れ世にてなりうるもゝの御時ハまゝねとゝぐ
ぬ世代とゝゝゝ人のゝゝゝゝゝ

後ちうとうをうて神武帝れ代よりうを経ぬ東ぐ
じをて職方より帰せとゆ二それこ行ハちよ日の
ちを今れ西海道よりて韓かるちう隠岐佐渡誠れちよいづ
ちもかるよむくれ国なうそのちうさあるうよハ隠よるるさ
きて来るから人今も多く一書よ素戔嗚尊之くさの国
よくうちしてくあうよかくるうを殖韓地ちをくるをあくを
えまばみとその地を経略しねのくまくけぐめ行つる
あをうして生ぐの国殿れ川のほうよぐとくし大
已貴神をうみ給ひそれも根国よいでゆくぬと出ぐて
韓よむうる国なう

自注むう三韓をからといひ西土を諸蕃といるよい
つれ呼うの混してからもいひそうもいひそうもいうて
誤りなて
ハそハ延ハ慢などいる此国ては本の宋教よちぐひハろ
数をくふとぬとうそうをくて八部かうまくて六曹
とけうを我わちくを此国ては八省とけぐめれ
とそのうちうなうと
おほいなたれうちせくて時をうをうて八人あひ食もといる
事紀伝よいのほどとろう此国ては法ひまきのぐけ
そのまちさへいくて不食忌そうぬゆを行そまて或人れうう

神(かみ)のたいしなりといふ。とり(鳥)けものの(獣)それらぢこ(氏子)くさぐかみ(神)れ(鎮)ぢめ。まつるやまこがね(金)。さろがね(銀)あり。くも。
ひさぐまつる人ぐさあけんとハせどいつまでもかくあり
ふる事なり
此國のごく(大)おほきなる弓をもちゐ(用)ず。ゆみ(弓)なるなれども
ろろ一人乃夷(イ)といふ。ろろ此國をさし。ろろや。大(ダイ)
連少連(レンセウレン)といふ。此國の人なるべし。孔子の九夷(キウイ)より居
まく。ろろ。此國孝順(カウレヒン)の俗(ゾク)ある事などろろ。俗へ
ろろ。あるひと。或人(アルヒト)乃ろろ。ろろ一のかなる(カ)國
も。狄(テキ)といひ。羌(キヤウ)といひ。蠻(バン)といふ。南西ともよけるの也

のつ。ろろ。ろろ。文字なまぐひ。ひぐ。此國ハ。ろろていのちな
ぐ。ゆゑ。さハなき。ろろ。ろろ一人のいろ。ぐあり。
ろろ一代(ヨ)の記録(キロク)をもけら一。ろろ。閲(ケミ)。ろろ。風儀(フウギ)をもろ。
しく。ろろ。ぐもとおろる事。おほ一。されどにといふも
そのろ。ろ。ゆぐれハまろ。のにあ。ぐいのちなくまも。そ
人ぐのいまろ。ろ。ぐ。ろれあ。ぐ。ろ。此國ハ生(ウミ)ま。ろ。人
ハ。その道をたろて。ろろ一人の。ろ。ろ。ろそなるぬやう
ろ。ぐ。ろ。ろ。
此國ハ人のろろをなほして。夏商(カシヤウ)の風(フウ)よりも。聖賢を
て。今ハ。ろ。ろ。ぐ。ろ。ろ。ろ

〻事〻周家れ文章まさるべ給ふ。むし王政のけうんなるゝ時おほやまの官職規禮をもてめ法ゝをのゝとせられゝ。衰季のまゝもてまじりられ、中國の風俗まもあんじ三代の者ともちがひゝる事をくれ〻ていひゝ〻。その〻ふ〻る人のやゝ〻れをもろ〻れるゆひて古今の異なるあめて風俗乃同しゝぬといふたがひなくなれバいとゝ希〻

自注三月の服ハ夏后氏の禮まして同姓不相娶ハ周禮のこゝろうといふひとりをあゝて其他をさゝ〻ゝろ〻代〻の風儀をゝた漢の時までハいまゝれちがゝ

まゝさハなるゝ〻ゝ。次第ちがひまものゝどゝろ法事もゝゝいづまたちゝゝとゝ。おゝゝ事ゝとゝ。かく議論して。なきゝ〻ゝ事多ゝ。ひとゝ〻あげくいゝゝ。御製の侍を。そ一代乃ゝ事ちゝ。羣下の法ゝ。ゝ事

ここさびしくわびとうあはれゆうたてあわびく紀風
儀まをおよぶまじくこのわたちもなく和をもぢよかをよ
なびてこをもをいくつづきうもあるべめいくその時世の
いきほひなれどかくこうれをおしてうまをたをもぢさう
もあるべ文のたひくハ小人とて僉なりといつる義なく
ろくとおぼゆ

自注文のたひく大史公曰文之敝小人以僉注文尊卑之
差也僉無悃誠也細碎也白虎通作簿

えびこの風儀もせぬくとえゆうもあるこうやくしかぬ
とえゆうもあくこそこうこ漢こう後の風儀ハせぬくなど

いつぐこうこ
あるくこうこれ風儀をまぬこれわがほの筑紫山寺ほこうけこう
ようこうれと遣こうけこうこうせあてこ代の時なこうばこう
今ほこうも遣唐使もぐなといつこうこに菅相公ほくこうこう
こそいこうこうこうなわとおこうこれ行ぐべくこ日出處天子文
ハ東天皇なぐくこ行ひくハこうあひこう彼国こうあぐぐこうこうあ
らぐ須美羅弥古都こうなこうこれなぐいこうこうこのこうこう使ひ
もいこ書をこうこくこうあぐくこれどこうこうひを搖こうの礼儀
をけぐめ書中れ文句いぐまほこうれ蕃王をまこの武よまこうひを
まぐ西河系なぐこうみくまこうぐこうこれハ遣唐の御使なくこよ

もうじと。或人のいひこゝわゞ國の人。高麗のほうゐれ下ゑ殺ざ
るゝ事。威光のごとくおぼえて。漢の匈奴をまつの礼もち
ゐ。規模なゝぬといふゑゝろづきなれもをゝ
ゝろゝゝハ世界のなゝうゑて。仁義禮樂おゝう。聖人乃國
なれば。中國といふゝろゝわゝなゝといふもありゝゝこゝを
國ゝゝゝゝまばいつまでゞ中國なゝぐゝやといふもあり。韓
人もこゝ國をあゞえて。えびゝゝはあゞといふゝゝゝて。東
華とゝなゝくゝゝもゝゝびゝゝなゝといへゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝ。國ゝれて。樂ものゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
南ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しきりて君子小人の多きをもて風俗のよしあ
しをもてなすべき中国のむきはてはてはてしなきもあ
ぢ又夷狄のむきはてはてしもあらんおろの
なれ人ハ田舎人かなるのうどのおなうぶなりと人のいつをきく
てもちぢのきるがごとくなるれゆゑもなくその国を中国
なりといきんとんざる事のハあるまじ
あしきとおもひ事も其の中よいうほどもおふふすあり
ときけバ悪をふくむものうるまぢらるべくなるべき
事なりとおもひしるも其の中よりもうる人ハまれし
ときけバ善をうのむれうるまぢらるべくなるられて

よもぎれうちのあさ麻なるうぬいやしきむまれつきうわおこ
あるうなれど其の中れ風俗ふうぞくうるへなきものとおぼゆき
はるるハいのちぢういうなきばかるわやらんとひしる花
多きゆゑるよう松の木よハおよぐべあるうちのうるわう理
まるたあるがるおぼゆ国を家と華なるといつるて
えるしかるぞゆきるる事ハ
文かるるき顔字ぢるる事ハ中国のむるしいるるれぐるるてセ
ざるきとあるる伝達のうる弱ひしるぐされどおぼまるぐ政大
しるるハ分のあるる大徳のあるまるきあるるねの弾ちわ
ぐるるまるしるるまで大元帥といつる国家しるるぐるる

ぞおほゆとある人のいひ
し国ハ災異をうけておそる事さらなれ祥瑞をも
て角つゝひのたまけとそるもまさるれ元日食
あまたぞそうづうそよ令じて政治おこれよ得失あをいそし
れ事あれども言ももるのまとあるもなるねどほ乃
ちよてハ公の儀式のやうなまう告朔のをつじよお
なじくもろうまでいたてうぞうさ国まてそのり
ねゝまねをまねそうはおよぶまし
うう人名儀そう時この事いうぐ行をひ行ゆやとうくバ上
をはぐうかゝうをとうあハせやかうそうちまわまハか

そうおうひ作るなれどかゝらぐらさる人いひいぐぞお
ほうゝおほぞゝ事なわのこひてまぞくそのなう
ちうある人もふそうさてハさてはうわも作ぐぞと
つづきほうやあるぐさまそそ儀よ作ゝまぐそその実
ハ名議よあゝぐそうゝ銭まなびてあいしそのおもひ
ようぐうきつまて寺てまはうやうよあゝさくそのし
世のかれぐあんそうゝ時て必ぐ不くよ盗賊おこうゝのあ
盗賊といつまてつよれぬを人よハあゝぐ庶民の年貢上年
しよおもくなわかうたうゝ人とそれバどぐをかうゝ其
おうゝてあくなんとそれバ妻よ銭そぐくもづさ採なさよう

やむことをえずして、徒党(トウ)相むさぼり乱(ラン)をおこすこと、いつれの、それ
よりしてふまじれ変故(ヘンコ)いできて、大藩(タイハン)小藩(セウハン)、貧ひくのむ
よなわ大きなるみだれとなる。脾胃(ヒヰ)そこなひ、百病
そこひおこりて、死をまぬかれざるものの、おそるべきのそれはべしき
なり。きこゆる年貢運上(ネンギウウンジヤウ)のおもなるものをいへば、上(カミ)より
人のおごりよりおこれり。されおごりといつるは、華美栄耀(クワビエイエウ)を
ぬむばこの城いそびそのふげん(量)を越(オウ)じ、いつをはかりわてい(出)ぐ
を事(政)なるものまたこれなさるべし。大家(タイケ)小家(セウケ)ものを、
よ(世)ゝ家(ツ)ゝそこる。年貢運上のこゝろて、はたらかなるべ(償)きこゝちな
く、民(庶)城をこゝろよいこれり。国(建)をうたるのそこめ多(オホ)く

ハそのこゝ笑(シツ)まして、家ゝ年貢運上うて、経費(ケイヒ)よあ
まりあうて、自然(シゼン)と仁恵(ジンケイ)のまつりごと(政)おこれるまこと、かゝ(上)
うる。下やもゝくあでうれ世のあゝさまなれど、一義(エラ)をぞ、
二義(エラ)をぞいそぢ、そもゝ法のちハいつゝれく
えものこゝおもくけつゝよなり。おばえぞふ限(ブンゲン)のあるよ生(イデ)
下城まゝこゝにいれり。えとこゝ城あゝていそぐ。器物(キブツ)よ
ちこめハ素器(ソキ)城用ひゝゝよいつゝれく漆黒(レツキ)ものゝ、おゝ
いつゝよなく彩畫(サイグワ)を加へ、おゝいつゝよなく金銀(キンギン)をそ
ほのよいつゝ衣服(イフク)をもぞめハ本源(モメン)を忘(キ)いつゝよなくを
むゝこなく、ゝいいつゝよなくゝなぬとなり。それゝして

ハ、どんちゃんなといつてそこらこのの城をちやびゝ
らしやとちやらぐしひなどいつる蠻國(バンコク)の品(シナ)を用ゐるゐれ
かふたぐひ事をとこなるねばいつぐういるものゝうず。いぢふ
ちやちゃうぐはくのちんやそのあひぐよハおぐう城禁(キン)ぐる
ちゃまつぐやのうなあるまとちれる明君賢相(メイクンケンシヤウ)なさる
しもあるねどおほうこハ小事(セウジ)小物(セウブツ)のこゝろ城用ひ
大事大物のいつとれくゝ分限(ブンゲン)ちゃをいつよゝゝ
ぢきなゝれば禍乱(クワラン)をちゝふ益(エキ)をなうぐうし
いつのぼるつあゝゝん材木(モク)あのはひくをいとひのゝもの槓(ボウ)
ほゝゝゝしゝきむゝハさゝら弁ゑ硫黄(イワウ)城つちゝれを

はゝ者ぢけといひしよ今世世の本城用ふるいうぐなゝや
ぐうゝたくのいつれるゝはゝばとてはを作るあたよ
アくゝれどほぐれくやそてくゝふ事ゝゝをうちふも
をうゝやゝはなゝはゝをゝていはぐゝゝゝぐゝ事城
みぐうよいひもちゝもうゝゝ
あはちとゝくくおひいぢふゝうねゝゝゝ金銀銅
をゝぐうゝほゝ掘出あゝてとうゝなゝてもゝもといつる
異國ゝゝのの物ゝゝて御形(ゴギヤウ)の乳を換(ソン)じ奏侯(シヤレ)のみなもく
をゝゝ千代ぐふゝうゝほゝのをゝむづさとハいつづきゝゝゝの鐵
ねハ他國の産(サン)をゝゝふとゝゝ蛮國(バンコク)ゝゝとぐれゝゝ雙(ソウ)ばあゝた

兵器(ヘイキ)をもたにおなじとて むうしよりこれを禁(キン)ぜず そ
もろ〳〵の農器(ノウキ)のごとく あらん事をおそれ
などいふ人もあるべし その国にもなくられば 竹をもろ
もろ〳〵の旗(ハタ)・木をけづりて戟(ホコ)とする日もてさしもいらぐ百二
のせきも 平地よりなきるといへば 兵器(ヘイキ)のはやるもうべ また
ぞわるあぶなきこれ 南蛮(ナンバン)より きたれるゆゑ
まて刀槍(ヤイバ)にたろ 元とくのもてもやせる鉄人をば 此国に
乃ろ〳〵ぶもこをぶれろ といひぶ〳〵かられろ
ぬも 此国よりはきれ〳〵といつて めもなくして 吹煉(スイレン)の
はひえよあつろざる鉄ろ人れとぶ はろ〳〵といつ

自注 胡居仁曰 金人不布帛換金銀是他有見識

ろ〳〵よ 金銀をもとめ 此国よりはなし〳〵といつる人あるよ
ある人れいつるてさまはあしび 此国は重宝鉄をもむろ
なくろぶよ山ようほる(掘)ぶでて 多くはえゆき 天地の
ものを生ぜ 人おほうはもぶる事もなく まはは
ぶる事もなし 此国のみ重元あるといつるとわ
アヤ あるぶさ めろ〳〵 重元のあるひきろ 此国は
きなさまて 金銀のもとれる事きれるあるぶやと
いつるに 又武人(アルヒト)のいつるてさにはあしびろ〳〵 重元あ
らぬれるぶ ないもぶ 此国よりは幾万倍といつるべ なれ

どうまを用ふる人多くなれよりて其價(アタイ)すくなくなる
くるくゆるくし此國ハあらゆふうぞ其をくれる事ハ
うまをうにちがれまれどうまを用ふる人まうまをうなきあ
價いやしく多くとゆたくハ奥をぢ菜(ツコ)といつるあるうハ
菜多くまあるひやをといつるがごとし米の北より生ぜ
ふ事一段(イチダン)ハいうばくいつるゑず よりて米(チガニ)て多ハあ
ぞ 船のたくうあるしく他國へ賣出(ウリイダ)をハ稼(カツテ)よろしかるぞ
おほうく其國のうまを用ひを用ふる人をうれさあ
價(ダイト)も安かるぞよりハ多をとゆ菜(ソレガシ)かくいつるて者(モノコレ)ち
ををうれうとし此國ハ劣(オト)をうとせんといつるんをハあらじ

其人此國ハ金銀をうとうえをうえ玉(ジツ)ハ生ぜぬゆゑ
おもをを寄うう銀みがうをほう出(イダ)す 或(アルヒ)ハうぐうをほひ物
し 或ハ他國よりおうて此國のゆくしをどいひをなる
事ハ 玉ハ其ぶ他ぶ所かなしきものあまり かくいつるなうと
うくしをとぞ
此國ハ絲(イト)をうれうれバうをうをうをうをうをうをふ人なく
バ 衣服ゆうをなうしどといひし人あるしにあるる人のいつる
ハ 此國の絲(イト)をやをうをうをさなうぐうれとかひをもく(楽)
をも をうなを此國ハ産(サン)をうをなをばをうしの王后(ワウコウ)ハを
しめ 狩替(ミガワフカヒコ)の猟を行ひ給ぐ ハ士大夫(レタイフ)乃まを(ツハ)

もゝそのやゝさゝしよくもの本をきゝて、ゝれをとゝ
ひゝるゝ、風俗ゝゝ、ゝゝゝ

中よハ強くてき事ハおほしといてとど
おとて法といてとこのハかろきおとさ鉄かんごく手かろき鉄
まて・おとさ鉄とて・一寸の法ちす・このなのうごうある
をの刀鉄とて・ものまうとろゆとがめしきれば・よ
ろばとうへなとさとよはやあごき・おろうなる人乃・う
ろきはとあろ鉄とて・よき法をとはるとろをしき
むしれる彼ハ素襖ぞうなわしにぞほいの上下とそ
この出来ひとくらうはきゆ・そごかとぎぬなどきれくあうて・
事わづらはしくおほゆ・うとごきうぞなどほうるゆまハ
ふとさ・あごさとうて・ものひごくおのづらうはとろ

ふいとれぞ・それはひえもかうあとうしむしの素襖
よもうんよハまうごといる人あとうよ・又或人のいるハ・
さよハあとまご・衣服ハ身よ仮あ鉄よしん素襖ハ身
よたとうあごぶふとのなどしゆふいつなくその袖を截
ととをもご考て・今れ上下とハなまた・今よむうれ素襖
よかつばつきごけよ・ふとうかるごし・えうわきあとて也
きまとざれてんゆるさでおほいなるちごひなとれバつ
ひえをはぶくとも・ほのほどの事・うあんその上雨なぶと
ふとも人まのしとうもなきもれいかとのまとあとうてぬ
きまほうれとほとゆんたごだちとうさとゆもさゆく

げ[illegible]うぐ〜といつてう[illegible]かくいさぎよう久[illegible]ひえなる
此國常の衣服いつの時よりか陽(ヤウ)にて信をうまむあるやなるべ
事おほし人の世なるの八(ヤウ)
[illegible]おぼゆ此國は[illegible]の衣服はいかなるの二重(フタヘヨヘ)四重なる
[illegible]そのさもさかしい[illegible]一重(ヒトヘ)二重(ヒトヘ)なる[illegible]これはそれらしの
衣服もさあれどそれらの人は[illegible]のようにかばかりなる
[illegible]うろたくのうちね一揉(ヒトモミ)[illegible]おぼゆ
[illegible]なるまてでさもよ袖(ソデ)よ袖(ソデ)入るる寒(カンキ)[illegible]なる
[illegible]あるぬるそぬるれたひえ益(ヤク)なる事なるべ
や肩(カタ)よりさぶぐぶしよりもはさもでさむうぬるの

ゆえかそれあるそれよりあるそれでよほそし
袖入れるもれくもそれはは腰(ハギ)かざるそばるそれかし
通ゆるもだるうあるんとおそるる背(セ)をぬひるもぬ
ゆえ腰(コシ)よあるうなるれはやぶれやそれ道(ミチ)ゆるるはぶ(アレ)よは
るる紐(ヒモ)のそのるつゆるるしたるあるはるるはえ(イフ)
まじ掛るるはめんあるそもるかるる事などそのるち
まるる人よるはくたづるそれ衣服なるるるる
くはひえなるるるあるたむでるなるむるは上衣下裳(カレモ)(キヤウイ)
といひくかるもるるなるるるるるるるるるる
るやそのちは紐るでるなる国の事の衣服もるあれは

素襖(スアウ)ごれとおもふこころをもて、えりくびさなるえびすはぐ
らぐくうハぎ(袍)ゑはあれはよこ〳〵えりハまるえりをもて、袖ハ
よこ紀かろこゝちをもてして、色を皇國の礼服(レイフク)ゝさハ、五月よ
り八月までハ、羅(ラ)紗(シヤ)ゝさゝみ布(ノ)、九月より四月までハ、どんゝさ(ルイ)絹、
ゝさぬきもゝさゝめんいづれもえりくゝりて、そ(ブンゲン)ゐ(オウ)ゐ(チヤク)て、
〳〵今れゝさゝをもて、及ハひくゝ、そハ袴入(ワタイレ)〳〵、ゝ紀のけ、ゝさき
紀ぬひ、今セ(ゼン)二俗(ゾク)のけゝくなく、ゝたゞゝよつけゝさゝやゝゝもゝ、ゝ
の股ハ脛(ハギ)、うさゝうなゝゝもゝ、はゝゝまゝよハ袴入(ワタイレ)ゝゝさハ、くびす(跟)
よゝゝけゝゝもゝ(寒)紀ふせゝゝんあゝゝあゝゝゝ、かゝゝれなど衣
服あゝなゝゝうあゝゝゝ

べられまゝにやとゝゝる事なるべし
あれ人はやりとさゝひごもさるなりてられよ毎月れらの
きてごひ南むきゝてゝゝんといふる人きぐらいるおほゝなる
その日火災(クワサイ)あひくゝれど今そといひて南むきゝる
なりゝゝるゝゝやのゝひごもきゝゝよりゝゝんといふる
人きゝぐらいるおほゝなゝゝも火災あひてゝれ
ごきゝひごもさゝたなりゝゝゝの法きゝゝゝやゝ乃
南向ごれといふる人きゝとゝゝなゝちて火災
あゝゝぶゝゝの南向となゝごきゝゝゝ事もおゝゝ
おゝゝゝゝゝてゝゝんあゝてはゝゝゝゆかんゝ法ゝひ

ゝれをなゝていゝのきゝをせん事法ゝひてゝんゝゝわごゝゝ
なきゝれどゝゝゝきゝゝれをおゝゝゝゝきゝ事いゝゝゝゝゝゝ
きゝごゝゝゝゝをゝゝゝれゝ(ラン)法やゝんぜんゝきゝご
山科(ヤマシナ)のゝゝはゝゝゝたゝゝゝ(佃業)ゝゝおやゝあゝゝゝ首(ゆゝ)ゝ人(望子)
のいゝなる俵(フクロ)法おゝゝゝ法ゝゝゝゝゝ丘ゝゝゝゝか
けあごゝゝゝひゝゝかゝゝんゝひなゝ事ごゝゝゝゝのゝゝゝ
きゝゝおゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝひゝゝわごゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人は荷(カキ)賁丈人(ヂヤウジン)のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
堺(サカヒ)よ　仁徳帝(ニントクテイ)れ御陵(ミサザキ)をはじめ徳帝れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こうて、ゑ分をむよ、おほやまのごゝ
いまゝをこのそちうある人ハ、国の法ゝ、まごゝ族葬
をごゝと事なゝ、方孝孺の文集よゝのゝけゝけゝくいゝて、も
つゝもなゝとおゝ間ん作ゝゝ、こ国ゝも、遠くゝゝゝけゝう
ゝる人ハ、国をゝ建ゝゝのゝゝゝ村墨ゝゝゝゝゝ間曠ゝゝゝゝ
ゝゝよゝてゝゝを寺ゝゝゝもあゝ、人をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ中
ゝゝゝゝゝゝ寺ゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ墓ゝゝゝ
をゝゝゝ發ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

ほゞの人なゝせまで（七年）伊のいきもなのうしゝてなつきと明儒（ミンジュ）の倫（ロン）ぜゝまゝておゝゝろゝおぼゆゝれど宋儒（ソウジュ）ハ薛廣德（セツクワウトク）をゝゝゝ陽明（ヤウメイ）をたゝゝゝんと倫（ロン）ぜゝられも亦おゝゝろゝゝやゝいつべゝ

そのゝれあゝゝ或人（アルヒト）のいゝゝゝ朝夕（アサユフ）せゝつゝん（諫）せゝ人あゝゝゝ

ゆゝのゝゝれゝゝゝやゝゝゝ

かるまてにぐ迯てはそろそろ人のたこ一し参(カム)ぬのたこの
といふ事なるてやくぐひのかぐてそろなるてて拵(ナホク)くめで
そろそろなるれてのそろそろひ一まくそろそろハ孫(ゴザウ)をてたくひ平
らのなるそろそろしもとそろそろ作れバ出てて取もるそ
よいそろやそろ一せそろ一ほぐなく出用ひくさなるまひそろ
そろそろ一ハそのそろ手そろほどハそれハよそろそれハあそろと人
のおもて城やぶりてもいつでそろまでどそあるそろそろ一ハよ
まなそろそろそろそろそれそろそれ
芸れ中ハかそろそろそろそろてかそろそろ城あぐむくもあそろよお
ろそろなそろそろをそろてかそろそろをあぐむくもあそろかそろそろ城

そろてかそろそろをあぐむくまでハなまでおろそなれそよ
あそろてかそろそろ城あぐむくそろかぐそろなよおそろそ
それ
そろあぐそろわそろ時むそろ武蔵(ムサシ)よあそろそろ出ようでハ人参(ニンジン)そろ
用ふそろそろそろそれなそろそろも人参を用れ
そろそろあまてばそよなわといそろ学の人人参の功(ユウ)あそろ
城そろ沢そろて杉菜(スギナガレ)とのいつれそろそろそろてよそろそろて法そろ
そろそのそろ李士村(リシサイ)蕭萬與(セウバンヨ)などのそろそろの方書(ハウシヨ)学よ行を
そろ氏法よ知そろてハそろそろ病そろ人参城用ひそろそろそ一ハ
そろれそろも人参城用ひそろそろ一あれバ下(ヘタ)よなそろと

いつさいのゆとゝ拔萃よあしよ其の人ゝ
毒の害あゝ事ぞとかゝゝ其事けゝうきゝ徐
景山が通介なりとは考ゝ之見識あゝて世乃
ゝやうよまゝゝがハざゝゝてなふゝ名
乳のゝゝれ痛乳ゝゝ乳の無のゝちよふゝゝの方書研考て
ゝれふ事ゝハ其人の赤体といひく ゝゝ也乳系と
そよゝゝれとゝよ人あゝ事ゝや
から人の把握よ毒蛇のかゝゝ家ハざゝゝ作のつゝてつ
よくおしつけ毒乳れつゝのちよゝれあゝれゝと利力ゝて
ゝゝのゝけハいてゝもなくかハゝゝれゝくいゆふと

いゝ
かゝれゝゝ妙ゝなゝゝいよハあゝゝ
拙ハなゝもおほゝゝれど脉を用ゝゝ
事ゝ困のゝゝよハちゝひゝゝゝやにおほゆや
まひゝゝ茱ひゝろゝゝゝゝとゝ事あゝゝれを
也困のゝゝハ単方なゝゝひゝくわゝと許胤宗が
ゝゝまゝとゝまハゝゝはあゝものゝ
自注許胤宗曰古之上醫病與藥値唯用一物攻之今人
以情度病多其物幸有功譬獵不知兎廣絡原野黄
人之獲術亦疎矣

ある人その子孫京よりやうとて来せしよしをほうものあり。
いつのころとも消息せしまゝその子孫いひつたへなげきしよ。
法印なりし天台の僧のいつるてをろうしも世間とく
もりの衣狩をうぐれふ風儀をつゝしてはしきて。
ふうぎなれぼうけも荘厳よろしかりねば庸俗の人ハ。
なつかしみおそれふ事しうをさとうとおなし事なるべ
しされどほうけれかうとうもちれうぐうなるやそを
この京よりあるとしけやうのあるしなるものかろし
ハ行れなるまゝハ無ぶの人にてもてめて京よりまゝし
けどもなの人もれゝやぶれぐさかけ本腹いとそうし

かゝるこゝろの人柄おゝなしこゝろ狂おほえ諸人きこえ
しまゝ今ハ学よ名をかぐよほ人れうちとなれうとかゝ
ぶるれも言忠信行篤敬といつゝほうれうぐうまよ
さぶべられそなくこのほうなるし人もゝとぐうとこと
そこあゝくとつハなられバのちうは叶をはるふな
るぐしといつゝそでありがゝさゝばうや
ありうよう秦の始皇の事を倫じて遠くおもんはう
れうの妖言とし直言ゝゝの誹謗を死をいへ
てかゝくありてハその國いうでうほうびさしむさゝどか
ゝ事ゝゝ文字のくまてえまでめづしき事のやうよ。

但ゞ侍れと、学のあるゝなるものハいまも古のなり、人の家
まていとゝしく死病苦又ハ水火のうれくなど必ゞある事な
きばあらゝゞめゝれ預備なくてハのれゝぬ事なゝと
ゝゞいゝゝゝかゞゝハ弱き事ゝゝいへ思もえゝぬいま忌
しき事れのゝまひゝゝてをゝれゝゝべのゝゝゝて
のゝきゝゝゝほくあもむゝゝ原ゝゝゝゝゝゝ妖ゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝもゝてハゝゝゝゝゝゝ

八聖人ならんよあらば勢なりといふ聖人ならんよあらばといふてもこゝはまづ〳〵これ勢なりといふてさもあらば〳〵郡縣封建をまぜまぜ封建郡縣を郡縣封建をまぜまぜ聖智乃君あるとても堯舜なるもまづ〳〵これ勢なりとせるこゝさ外あるまじ此國も郡縣なるまづ〳〵時もあるまづ〳〵よいたとるくひごとなる法なるまづ〳〵封建武御代となる上下そなをやまをんじめでたくもえそやとたいまづ〳〵まされぞおごそかじとなるまづ〳〵弱い人のんなそねばほう政なるなる利ぶ周家なハ百八かそなるんまづこさやぬ利ぶえ伝なるとなるなるとなる人なるる記

芸窓筆記論封建曰封建郡縣孰優孰劣古今儒家議論紛紜余雖庸劣二百四十二年間春秋一千三百六十二年間綱目略窺其顛末間嘗以為郡縣不如封建既而屢遊朝鮮觀其郡縣之俗亦以為郡縣不如封建然則彼其以郡縣為優者乃古今儒家經遠之慮未審而折圭擔爵躋々蹌々上下安分共躋太平余以為唯有我國物有固然事有必至蓋郡縣之世者天下人心奔競是務賄賂盛行讒毀併興雖有善者難以為防而已矣或問賄賂行焉讒毀興焉何獨郡縣曰鈞之利也商者之遑々酷於工者之役々勢使然也

かゝ国れあもさけくさる人おほぜいこゞゐあり　をうふ
し朴射夫といつる翁ひそうてからうしハわがゝるて郡縣
の世まて下なゝるこゝろみ下をさまゝで自然とけの言
ゝゝもおほゝゝゝみハやまひなびも賄賂おゝなゝれてあり行たゝハ旦
をゝえゆゝべよハおゝろへ学の中ゝゝげゝゝなゝゝゝゝ甚
けこの国のゝなゝ人そのゝゝ実ゝゝゝゝ

むかしハ徳政(トクセイ)といふ事ありてかりをうけ質をとられたる者
かりてハ利(リヤク)をさくる事ときそうしてとまり居くとあるを
ときまゐ人のいひしとぞ
あるうのまうしれ人のあきなひあつまりてむかしハ拙(セツ)なる
銭(キ)ばかりもとおそれ仕る上(カミ)おごり(ヒモ)下ななひ者ハ国
乃民(タミ)ども年貢(ネング)運上(ウンジヤウ)のおもきよりてうねがらちちるもの
なとそのはたらきを取あつまりてきくにそのうへ銭(ゼニ)訴(ウツタヘ)
しく上のあそれ銭もむをを哀訴(アイソ)といひあるそひ村(ムラ)
ふくむ村(ムラ)へひとを郡(グン)ふくを郡(グン)ふくを諸人(モロビト)といひあるを国
れかをの事 執(シツ)れ人のれよおいう(ヒキ)ぐまうつくせひよ

ときをひのををを要訴(ヨウソ)といふをれを民の哀訴(アイソ)をを乱(ラン)
のををめをまとこれハ人のふとやをひをとをふをとし
おをををおをれをいまをのををあををを銭をやをを
ときを警師(ケイシ)もあをを療(レウ)ぜハあをは行事の
あををを民のををみ甚(ハナハ)をぜんをもなく要訴(ヨウソ)をを
ををてハ下れををハををふかをれど上をを人ハかをを
をををををを生来(イデキ)ををあハ子の批判(ヒハン)なをおをををを
かををををををををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををををを

いひなをおろかなる人ハげにもおそれ刑罰をもて禁
きめんとこそ思て補ふべき病を乃なる弊ばかりを政
ごんして猛薬をのみ元気を撃ち形骸をやぶれ
通かなるて乱をなす事をこのごうしさ
きどおもき病あり乃なるそれ薬のもて朝夕
のこそ死をまねかれなるべく乱のそゞめと思ふ
ようして医の中こゝろとつまでハそこのとつて
ふるものなるゆちちある人の法をうめて穿かく
いつをもてらしよもふもあり良ハかるはいい
なくおそかもありてさる事やあるべきとかりそし

ゆるちよほどかるふるびとうこそれぬ其中とて
なるなり分もちあしき人のたゞひよおそひとぞる病づ
きて わうぼよもそごゝいつまくのみどもえにいつのも
ともかくあるでかなしきおほやけあるべきことをもう
ぶるつくハかる事をろよにおそひ終つもぐき
なるもとむうしのる我今のるうよおぼえそごろよ涙
ぐもてかるうしもあ ほの世のいきしめやとまる
ばふ

自注あるべくみともるとる共天工なり国の輔佐
人をいつ書経よ天工人其代之

貨(タカラ)ハ國のうるを財(ザイ)ハ國のいとなるゆゑ平天下の章(ヤウ)ヨ財をなすその事ばかりをなすを國家(コクカ)といへるもうなる人仁義禮樂の事ハ文(フミ)もあるらんしかるもいでど財用(ザイヨウ)の事ハ人のをさるこのていつる事なれバ忘れいそぐもと思ひ義をさきとし利をはなれて人よゆ讓(ゆズ)るもあるべきれど是ハいやしかるべきなくて何(ナニ)ゴト事をのなるべき許魯齋(キヨロサイ)の學老(ガクレヤ)ハ先生(セイ)ばかりをもむるをもてまことをいつる議(ギ)ばかりあるべきれと財(ザイ)をなすといつるそのはぶ節(ふし)をはぶくるを事ばかりをそんじてかるべ

きし人をやとめておのまことをよハあるべず

自注なるハ漢書曰貨者國之本也唐書曰財者國之命也賈誼曰積貯者天下之大命也損下而益上瘠人以肥己竊之道也

千里(セニリ)の馬ばかりをもとめ雄頭裘(ウヲ)(チヨウキウ)をやとめ宮女(ナウヂヨ)三千人を出せる(タヅヒ)ばかりをもて上(カミ)ハ市身(ウリミ)ハ儉約(ケンヤク)を行ひ給ふ事ハ夢(ユメ)にもおぼくもそなつべきなれば公ばかりあるをもとめ(トモ)ばかりあるのハ

ばかりていとをば儉約(ケンヤク)ばかれ名のみあるをもて實(ジツ)なるべきれバ國

をもつ益(エキ)ハなるべ

ろ人のをもをるべ或人(アルヒト)ばかりをひとりのふ

そもそも世にしるし山に虎あらて人をそこなふ先祖をころしまさるものあらば十萬貫をたまふべしと榜文をたてはなんとそる世がそのの人をさそぬいのちハをしかるもやと
いつハたらぬにそもちらぬいのちハ仁をしかんとそる
へしとかるうさおろかなる人のこころぞしかるにをう
しき事なれどたとへあつえをもの人のうらみそ
ましをもこのうえぞさこうて入まて人をかりて生るのい
うはもいでさはれまはそのオもあやふしなり亦もおろ
ぶるるつれるなるこのはをのぐうこうれなく漢の帝

乃西園の禮紙をくて人のこころはうをなれ火陸
のそゆをおばえ董卓ぞ鄙塢のうめをあつ矣
てはそのうを火をもの城をぶかれしてもし
てはでしかるゆをうなるハ民散ぞと
ハけをひけめ
なるうはうみていまでちをかていでとて事ぞとして
上てふ人ち城をてげなぐ故なをにをうをあり矣
ぶへあをちもたひくうなるおはうぐひでうなぐ
おをひうぐふ事をはひえをくなるみいかしこを
まぐをちうれをまづめんとをたかぐうなをいをを乃

倉 ほひえいでさ、くるよ ほくるほうのいつくなくうゆくもの 失
なくうどくるもしくくくくくの残くくくもさくくといひあくくじき
わざくくひあくくもざかくといくくなくくと、なくくくくもまくく辛ほ 或
人のくくくくくよくくのたぐひをくくくくくもまれあくく
あくく事くくくくくさくくいやくくくをあくくびくくなど、おほけの。 商人 公
くくの事くくくる人といひあくくをくくくくのあをくくくといひ。
鹿 おくくくくのなくくくくくのくくくくといひ上をあざむきを笑くれ 精
なくくくくとまくくけなどくくくくくくのハ交ぞ酒のくくくくごのにし
てあ朝なよ なくくほ辛くくくはぶくれよくくくなふくくむまくく。 暮 失
くくれもくくくて悖入まくぞくくくていづくくくてくくくぬと或 アル

芳洲先生集著

くくぶくなくくる人のいひ一ぶくくくと見ひ伝れ
芸の中ほぶおくくみやくくなくくぬくくのあくぶ。たくくくハ国のい 命
のちくくくくくく

きこえぬありさまなれば、ものいはぬ人なくて、あやぶむ国ばかりなどいふ人のみを感ずるのみ。ところのあるらんのあはれとは、たとへば紙のなきところをしくがごとくにて、紙を作るは才学識の三長なれば、いづれの国にか帳なしといひて、かきたるおくるのあり。年ごとの国にも帳なしなどいひて、かきたるおくるのあり。陰晴ハ、くもりはれなどいつたぐれのみなれば、政務人事よりあづかり、ものを論ずる者、今までかきたるハ希

なるべきものなれば、人ごとに決断の多しとて、それも五六十年よりはもぢぐ紙をしくなるハ幾百年ともなきものなれば、人をたゞちにおくるとは、しるしおくるとは、紙をしくゆゑなり。

世の中ほどあやしくをしきものはなし。人の紙をしくことにいとゞ事なれど、紙を考へて、けやうの悪事なりこの国ようにふまばふしぎなるやをおくるとは、其臣いふほどもあれどかゝる時ハ、紙なきところにあとをかくふるべし

自注漢儒は経學をもて史術(レキツ)をうぐはるもの多し
うげつの賊(ゾクク)堯舜湯武をもて證據(レウウコ)とするもの
をいふ

芳洲先生たちれくと上書

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan